



杉並区の防犯のあり方について、一般質問を行う（以下概略）

● 防犯教育について

Q. いま現在、区立学校でどのような防犯教育を実施し、その目的は何か。

A. 平成18年度から、地域社会・関係機関等が連携し、子供の非行を防止し、犯罪被害を防ぐことを目的として、「セーフティ教室」を全ての小中学校で実施している。

Q. 受け入れ側である区立学校はどのような反応か。区としての今後の方向性もあわせて問う。

A. 「セーフティ教室」を通して、自分の安全は自分で守るという意識や、子供への日常的な声掛け等、社会全体で子供を見守ろうとする気運が高まり、今後も関係機関と連携をとりながら、防犯教育をより充実させていきたい。

Q. 区立小学校における地域安全マップの作製状況はどのようになっているのか。

A. 児童の安全確保を図ることを目的として、全ての小学校で学校安全マップを作製している。マップの作製に際しては、各学校の担任等の指導のもと、児童自らが地域の点検を行い、保護者と話し合いをするなど、各学校の創意工夫のもとで作製している。

Q. 地域安全マップの作製に際して、標準的な仕様はあるのか。

A. 隣接校との接続性を確保するため、教育委員会で配布した統一様式の白地図を使用している。

Q. 地域安全マップの作製を、防犯教育の一環として標準化し、その過程を通じて、地域の結びつきや防犯意識を向上させてはどうか。

A. 小学校では、保護者等とともに地域安全マップを作製しており、今後、町会など地域住民の協力を得て、地域ぐるみの防犯意識の向上に取り組んでいきたい。

Q. 区民に地域安全マップを配布する等して、地域の情報を共有すべきではないか。

A. 児童の安全を地域ぐるみで守ってもらう視点から重要なことと認識している。現在は、当該校の児童・保護者を中心に配布しているが、今後、情報共有の手法等についても検討する。

● 区立公園の防犯環境設計について

Q. 見通しの悪い公園等、防犯上問題のある区立公園の情報は、どの担当部署が把握し、どのように対応しているのか。

A. 区立公園の管理は、みどり公園課が所管している。区職員が公園を定期的に巡回し、園内の見通しや防犯上問題がないように低木の手入れを適宜行っている。また、夜間の利用に問題のある公園については、警備会社に委託し、巡回することで安心して利用できる公園の管理に努めている。

Q. 設備等が老朽化した公園を見かけるが、築30年以上経過している公園で、最新の防犯対策に配慮していないものがあるのではないかと。今後、防犯に配慮した公園へと計画的に改修を行うべきではないかと。

A. これまで、年数の経過した公園では、道路から園内の見通しを確保するために出入口を広げたり、周辺の見通しを阻害する樹木を移す等の小規模な補修や、夜間の明るさを向上するために公園灯を蛍光灯から明るい水銀灯に変える等の必要な防犯対策を行っている。

Q. 防犯に配慮した区立公園へと改修を行う場合、標準的な仕様はあるのか。

A. 公園の大規模な改修時には、東京都の「安全・安心のまちづくり条例」に基づく公園の防犯上の指針に従い、改修を行っている。

Q. 設計について、有識者から助言を得られる環境を整えるべきではないかと。

A. 警察などと連携し、必要に応じて有識者から助言を得る場合もある。（了）



▲ 議会で質問を行う 増田 裕一



裏面に続く